

JAPAN-IV

世界に誇る日本「漆」文化の結晶

Japanese lacquer Art Exhibition, 2021
Midorigaoka Art Museum
January 6th → February 28th, 2021

美を纏う名口叩の嘉宴 語り継ぐ 時絵展

●緑ヶ丘美術館 新春企画 継がれる「用」の伝統美

日本の〈漆〉展-IV

2021年 1月6日(水)～2月28日(日)まで ●入場無料

【開館日】 水・木・土・日曜日 11:00～16:00 (入館は15:30まで) 【休館日】 月・火・金曜日

【会 場】 緑ヶ丘美術館・本館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘2731-10

【U R L】 <http://mam-museum.com> <お問い合わせはFAXで: FAX 0743-85-7880>



MAM

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

Japanese lacquer Art Exhibition, 2021
Midorigaoka Art Museum
January 6th → February 28th, 2021

JAPAN-IV

世界に誇る日本「漆」文化の結晶

伝統美を守り、創意にあふれる 技の伝承世界が新春を飾る

はるか昔、約1万2600年前から現在まで継がれてきた伝統の美「漆」。
椀や膳の食器類から、文箱や手鏡などの日用品まで、日常を豊かに彩る
贅と堅牢さから漆芸は私達の生活に「用」の美として寄り添ってきました。
時を経て鮮やかに、煌びやかに、神々しい美術品へと昇華され
その技は現在の名匠と呼ばれる作家達へと受け継がれています。



「春蘭の図 飾皿」佐藤 幸一 作

「蒔絵朝陽群鳥文 短冊箱」高瀬 竜一 作



「暁鶴蒔絵 大盃」二木 成抱 作

美を纏う名品の嘉宴

漆黒の艶に金・銀の光沢の華やかさを纏わせる技法は、
魔法のように漆器を燦爛たる姿へと導いていく。
漆の木の命をその身に宿し、伝統と技を極限まで研ぎ澄
ました漆文化の結晶。
緑ヶ丘美術館恒例の「漆」で始まる令和三年、語り継ぐ
蒔絵の名品をご高覧下さい。



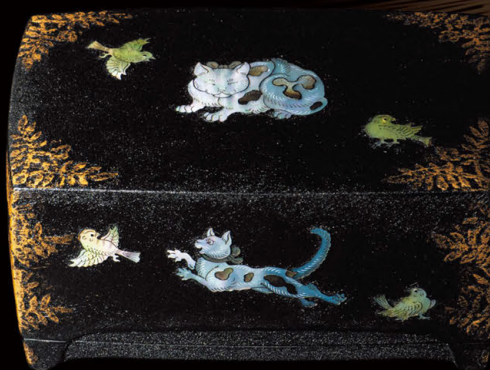
「翔 宝石簞」井波 唯志 作



「扇蒔絵 広蓋」初代 清瀬 一光 作



「蒔絵箱 花咲み」坂下 好晴 作



「乾漆螺鈿箱 眠い猫」
しんたに ひとみ 作



●緑ヶ丘美術館 新春企画
継がれる「用」の伝統美

日本の〈漆〉展-IV



Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館

交通アクセス

- 公共交通機関：〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または
〈近鉄生駒線〉〈近鉄奈良線〉で『生駒駅』下車。
生駒駅「南口 1 番のりば」より奈良交通バス『中菜畑二丁
目行き』バス乗車→『新旭ヶ丘バス停』下車、徒歩すぐ。
- ※ 当美術館には駐車場はございません。

【会場住所】〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 2731-10

